

今週のメニュー

■トピックス

- ◇ “エコプロ2016 ～環境とエネルギーの未来展” に出展！
ー塩ビ（PVC）ブースをご紹介しますー

■随想

- ◇芸は身を助く！？
Ⅱ. 「民謡界（唄と楽器）」（前編）

日本テントシート工業組合連合会 理事長 泉 貞夫
紫風会 主宰 泉 紫風

■編集後記

■トピックス

- ◇ “エコプロ2016 ～環境とエネルギーの未来展” に出展！
ー塩ビ（PVC）ブースをご紹介しますー

日本最大級の環境展示会“エコプロ2016”（(社)産業環境管理協会、日本経済新聞社主催）が12月8日(木)から10日(土)までの3日間、東京ビックサイト東1～6ホールで開催されます。今年の出展者数は730社・団体、入場者数は17万5千人が見込まれています。

1999年にスタートした同展示会は18回目の開催となりますが、今年のテーマは「持続可能な社会の実現に向けて」です。「パリ協定」が11月4日に発効され、現在モロッコで開かれている「国連気候変動枠組条約第22回締約国会議（COP22）」では、2020年以降途上国を含めたすべての国に地球温暖化対策を義務づけた「パリ協定」を実行するため、温室効果ガス排出量削減に関する新たな枠組みが議論されています。数十年先を見据え、低炭素社会への取り組みをどう加速させるかが今後の課題となっています。

“エコプロ2016 ～環境とエネルギーの未来展” はアジアを代表する環境・エネルギーの総合展示会として、「地球温暖化対策と環境配慮」、「クリーンエネルギーとスマート社会」を2大テーマに掲げ持続可能な社会づくりを日本と世界、そして未来に発信します。

塩ビ工業・環境協会（VEC）と塩化ビニル環境対策協議会（JPEC）は、過去9回連続して出展し、PVC製品の環境性能やその優位性と、新たな可能性を訴えて参りました。10年連続出展になる今年は、「Sustainability ～塩ビが持続可能な社会実現に貢献～」をコンセプトとして、塩ビがどのような特長で循環型社会実現に貢献できるかを訴求します。

今年度の企画ブースは「家」というわかりやすいモチーフから入り、塩ビにはどのような特長があり、それが持続可能な社会実現に貢献しているか、我々の身のまわりでどのように塩ビ製品、リサイクル品が使用されているかを出来るだけ現物を用いて展示します。また、ブースの奥のエリアには“PVC Design Award”の受賞作品を展示します。

私どものPVCブース（東2ホール、No. 006）へのご来場をお待ちしております。詳しくは、[エコプロ2016](#)の案内をご覧ください。

■ 随想

◇芸は身を助く！？

Ⅱ. 「民謡界（唄と楽器）」（前編）

日本テントシート工業組合連合会 理事長 泉 貞夫
紫風会 主宰 泉 紫風

一口に日本の民謡と言っても、その種類や数は半端なく、作業唄（農作業・酒造り・他）・山唄（馬子唄・追分）・舟唄（漁師・川下り）・御座敷唄（武士の武勇や貴族の優雅な遊び・芸者さんの小唄・新内・端唄様の艶もの）・祝儀唄（婚儀・祝いの席）・・・と、非常に多岐に亘っています。まさに生活に根差し、その数 58,000 曲とも言われ、日本の民謡は殆どの TPO に合う民俗音楽と言っても過言では無いでしょう。しかも、生活に根差した音楽文化ですので、アカペラで唄って遜色が無いというのも特色でしょう。

民謡の唄を習い始めて数年で、北は北海道から南は沖縄までの民謡を 100 曲以上は 3 題目の歌詞まで覚え、入浴しながら南下・北上し、湯に逆上せてしまったことも度々でした。風呂場の発声は湿度が高くて反響も有り、歌いやすく喉にも優しいのです。

民謡に限らず邦楽全般に言える事は、1 に演舞 2 に朗唱 3 に囃子 4 に伴奏でしょう。踊りに合わせて唄い、その唄を囃し、楽器で伴奏して興ずるのです。逆に言うと、楽器伴奏者は唄を知らなくては演奏できず、歌い手は踊りを知らなくては歌えないのですから、一番の実力者は楽器演奏者、そして歌い手、踊り手は即興も可。

平安時代には雅楽・舞楽の分野では、伝統的な奏法を打ち破る自由な演奏は婆娑羅と称されていました。洋の東西を問わず、演舞もそうですが、唄も楽器演奏も本来はその場の雰囲気合った即興が原点だと思います。小生も、歌詞を即興でその地方に合わせて唄った事もありました。クラシック音楽の曲名が数字や調子記号で表わされている物が多く、ちゃんとした譜面が有るという事は、作品と言うより練習曲が多かったのではないのでしょうか。

篠笛のオファーが多い昨今、私の活動の場は民謡から他の邦楽ジャンルに代わってきました。そして、何かの曲を演奏するよりも、演舞や吟唱、朗読やお経に合わせて即興で笛を奏でるスタイルが圧倒的に増えました。まさに音楽の原点です。その場の空気に溶け込み、演舞や歌の真髄を肌で感知し、篠笛の持つ独特な竹の響きや息使い、無限に澄み渡る凜とした音色に深い想いを乗せて、竹で唄うのです。

話を日本の民謡に戻します。

日本の三大民謡と呼ばれるものを、ご紹介いたします。1 に「江差追分」、2 に「越中おわら節」、3 に「山中節」とも「安来節」とも言われています。

☆「江差追分」は、北海道江差町の漁師唄です。「追分」と言うと「江差追分」を指します。追分節は、江戸時代、信州中仙道で唄われた馬子唄がルーツで、江差に北前船で運ばれ「江差追分」として伝承されています。民謡の神様と呼ばれるほどに味のある難しい唄です。



第 54 回 江差追分 全国大会 (2016 年)

前唄・本唄・後唄が有り、元来は本唄だけでしたが、後年、前後に付け足したのが前唄と後唄です。毎年9月に江差町で開催される全国大会には、日本国内のみならず世界各国から追分愛好者が各地の予選会を勝ち抜いて出場します。

本唄「かもめの鳴く音に ふと目をさまし あれが蝦夷地の山かいな」殆どの出場者が唄う本唄歌詞です。3日間は江差の町は、かもめ♪かもめ♪で明け暮れます。七節およそ3分足らずですが、節中に息を継いでしまうと、どんなに名人級の唄い手でも失格になります。(出だし・せつど・のし・もみ・すくい・本すくり・半すくり・止め)という独特な発声法を完璧にマスターして初めて唄える歌です。この発声法をマスター出来れば、他に唄えない民謡は無い、と言われるほど難解極まりありません。

☆「越中おわら節」は、平家の落ち武者が行きついた集落の一つと言われている、富山県八尾町に伝わる優雅で妖艶な民謡です。“二百十日の風の盆”とも言われる秋の収穫を祝うお祭りが9月1日から3日間続きますが、昼夜を問わず舞い唄い奏でられる民謡です。

「来たる春風 氷が解ける 嬉しや気ままに オワラ 開く梅」
「唄の町だよ 八尾の町は 唄で糸取る オワラ 桑も摘む」
「待てど出てこず 出る時や会えず ほんにしんきな オワラ 蜃気楼」



越中おわら節 座敷踊り

深編笠を被った男女が対になり、半纏黒装束の力強い男性の色気と、浴衣姿の優しさ溢れる女性の色香が妖艶な世界を醸し出し、得も言われぬ情感が込み上げてきます。

胡弓の、忍び泣く様な音色が一層観衆の心を掴みます。民謡に胡弓を使うのは富山県民謡の特色で、「麦屋節」や「こきりこ節」「新川古代神」「せり込み蝶六」など富山県の他の民謡にも使用される事が多いのです。元々は天理教の仏

器と言われているが、富山の人々の信仰深さがうかがわれます。(因みに北陸地方は福井県吉崎御坊の蓮如上人の影響からか浄土真宗が盛んですが・・・)

最近では全国からの観光客があまりにも多く、町流しを観に来たのか人の頭を見に来たのか、とクレームも多く、数年前からは11の町が順番に担当する前夜祭が10日前から催されています。

☆「山中節」は、元は「江差追分」と言われています。

北前船の船頭衆が、北陸山中の温泉で湯治をした際に湯床で唄った追分を、山中の湯女や芸者衆が聞き覚え、お座敷調にして唄ったのが「山中節」と言われています。

九年間「山中節」コンクールに挑戦し優勝まで及ばなかった私が、追分を唄いはじめて四年目でタイトル(十八代目チャンピオン)を勝ち取った事を考えても確かにそうだなあ!と納得がいきます。山中座には、私の名前が入った提灯もあります。



中山温泉 芸妓さんの唄と舞

一般的な民謡には無いこぶしの回し方や、さらりとした品のある色気の歌詞、一節がとても長いことなど、似ている部分は沢山あります。

「送りましょうか 送られましょか せめて 二天の橋までも」
「主と逢瀬の あやとり橋に 積もる白雪 傘二つ」(紫風作)
「山が高うて 山中見えぬ 山中恋しや 山憎や」

コンクールとは別に、芸妓さんが認定する資格審査も行われ、如何に艶っぽく粋に唄いこなすかが大切な唄でもあります。三級・二級・一級・初伝・中伝・奥伝と六段階あります。私はタイトルを取る前年に奥伝を取得済でした。年に一人もいない事もある最高位です。コンクールとは唄い方が違います。やはり奥伝取得者として、「山中節」を傳承したいと思っていますが・・・。

今回は「民謡界（唄と楽器）」と銘打っていましたが、ほぼ唄の話になってしまいました。次回は「民謡界（唄と楽器）」（後編）として、民謡に使用される楽器について、お話しをしてみたいと考えています。合掌 紫風

(つづく)

⇒ [バックナンバー](#)

■ 編集後記

今週はまた両親が長い船旅に出ました。

地上 10 階建ての巨大な豪華客船、船内でのイベントやアクティビティに参加、島々に寄港し観光。ゆっくり流れる時間を海の上から体験出来る。などなどいつも帰国した両親から話を聞きます。

でも羨ましいというよりは私だと時間がありすぎて退屈しそうだなと感じます。それよりは温泉につかってのんびりするのが今の当面の夢です。いつか豪華なクルーズに行きたいと思うのかなーなどと留守番をしている犬に話しかけています。(リマル)

■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)



◆編集責任者 事務局長 名原 克典

■東京都中央区新川 1-4-1

■TEL 03-3297-5601 ■FAX 03-3297-5783

■URL <http://www.vec.gr.jp> ■E-MAIL info@vec.gr.jp